

位置図



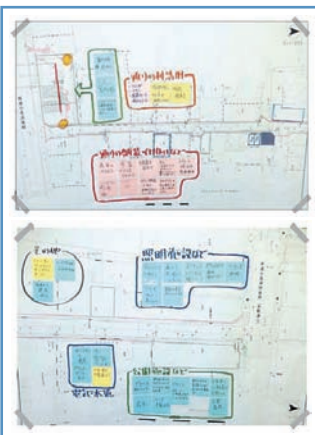
平成27年春を迎え、小名浜港湾背後地では旧福島臨海鉄道貨物ターミナルの撤去作業が進み、イオンモールの建設予定地が更地となってきました。イオンモールの建設は、作業員の確保や資材調達などに時間を要することから、着工時期が半年程度遅れることが発表されています。ですが、27年度からは、「港とまち

港とまちとが一体となったまちづくり

第一歩としての「(仮称) 竹町通り」



発行所
小名浜まちづくり
市 民 会 議
TEL: 52-1275
FAX: 52-1415
発行日
平成 27 年 3 月 31 日



▲ワークショップ意見のまとめ



▲ワークショップ風景

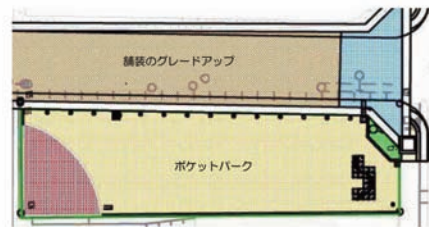
が一体となったまちづくりの実現に向けた第一歩として、イオンモールと小名浜市街地を結ぶ「(仮称) 竹町通り」の整備が進められる予定です。

港からの避難路としての役割も合わせ持つ「(仮称) 竹町通り」は、アスファルト舗装からグレードアップし、ポケットパーク(小さな公園)も整備されます。また小名浜まちづくり市民会議では、(仮称) 竹町通りを目にしたイオンモールの買物客や周辺の観光客などが、「この先に何かある」と思って頂けるような通りにし、小名浜のまちなかまで回遊してもらえることが重要と考え、これまでも通りを活用したイベントを開催して参りました。また空き地等の有効活用を検討と共に、通りの計画・設計を進める市や県と何度も意見を交換。「ポケットパークを小さなステージ・ギャラリーに」「まちなかを感じるやさしい色合いの舗装」「雰囲気の良い暖色系発光の照明」「通りの愛称の表示板を含めたデザインの統一」などについて検討してきました。

小名浜まちづくり市民会議では今後も、地域の人たちと共に新しい小名浜のまちづくりについて協議していきたいと考えております。

通りの愛称「汐風竹町通り」をイメージしたデザインを提案しながら、意見交換をしました。

ポケットパークのイメージ図(図右)と道路名称表示のデザイン(図左)



イベント時の利活用を考慮しながら、レイアウトや機能について意見交換をしました。

愛称決定「汐風竹町通り」

「(仮称) 竹町通り」を、観光客などの来訪者の方へもわかりやすい「道しるべ」にしようと、昨年、愛称を募集しました。

11通の応募の中から、学識経験者や民間事業者、関係機関などで構成した選定審査委員会が厳正に審査した結果、安田敏さん(いわき市四倉町)の作品をもとに、涼やかな汐風に乗った新しい人の流れにより、港と既成市街地がやさしく融合するイメージから「汐風竹町通り」と決定しました。またこの愛称には、小名浜港1号ふ頭の防砂防波堤として埋設され、現在の小名

めぐるの囃子



志新たにスタートした今年も梅の盛りを愛でるのも束の間、間もなく桜の盛りを迎えます。「小名浜まち開き」を彩るはずのイオンモールはその開業が遅れる見通しですが、時の流れは留まる事を知らず、暦をめぐっていきま

す。イオンモールは、その施設自体がある意味一つのまちの形をしています。その施設と連携して、小名浜に勢いをつけようとする時、私たちは同じく

らい勢いのあるまちを作り上げる必要があるのかもしれない。その時に互いに相乗的効果を上げる存在となるように思います。

今、市民会議で検討を重ねている中心市街地活性化法の適用を受けようとする動きは、もう一つの勢いのあるまちづくりを助けるものです。全ての計画がその予定通りに進まずとも、ひたむきに目指す所へ向かって行動を起こし、積み重ねることが時の経過を無駄にしないことに繋がります。

(著:F.O)



▲応募作品

浜港の安全と発展を見守ってきた駆逐艦「汐風」と従来の地域の呼称「竹町」が含まれています。小名浜のこれまでの歴史・文化を残しながら、新たな未来へ向かって発展する「みなとまち小名浜」への期待と願いが込められています。たくさんのご応募、ありがとうございました。



パートナーシップ
委員会
小沼 郁互

広報紙「しおさいかわら版」を毎月発行し、市民会議の活動内容や震災後に関わりゆく小名浜の姿を伝えてまいりました。小名浜地区の回覧板のほか、フェイスブックや関係機関・団体へのメール配信など電子配信にも取り組んで参りました。また、これまでの広報紙を冊子化し、銀行や病院などでも閲覧できるようにしました。まだ不十分な点がありますが、26 年度の流れを踏襲し、加えてホームページでの広報も視野に入れ、次年度の委員会へその活動内容を引き継いでいきたいと思ひます。広報活動は、市民会議の活動内容を発信し、その意思を共有していただける、あるいはご理解いただける市民の皆様の輪を広げることにあるかと思ひます。その目的の実現に向け少しずつ活動の輪を広げて参ります。



まちなか潮目
委員会
川田 政雄

26 年度、対外的には紀尾井シンフォニエッタ東京による「まちなかコンサート」の開催や、旧小名浜魚市場では最後になるであろう「いわき魚まつり」の運営協力を行いました。多くの皆様に足を運んでいただき、どちらも盛況となりました。一方、内部の活動としてはまち開きに向けたイオンモール、(仮称)竹町通りに関わる各種会合に参加し、協議して参りました。これは今後も継続していきます。27 年度は小名浜ガイドマップの見直しや制作、まちなかコンサートの開催を予定。状況にあったタイムリーなまちづくり活動をしていきたいと思ひます。

委員会総括

市民会議では 3 つの委員会と一つのプロジェクがあり、会員は各委員会に所属しています。各部門の 26 年度の活動内容を振り返ります。



歴史と文化づくり
委員会
太田 丈人

市民会議総会で決議された「ほととぎす・小名浜」実現に向け、様々な活動を展開しました。4 月は主な活動拠点となる富ヶ浦公園の美化清掃活動を実施。7 月は海事関係表彰で市民会議が応援する小名浜海洋少年団の国交大臣表彰受章を顕彰しました。9 月には歴史研究家の小野一雄先生を招き、小名浜代官所 122 年 26 代の代官に関する古文書と寺西重次代官の功績について学びました。また 2 月には小名浜港を一望する富ヶ浦公園で、3 月 1 日にいわき海星高校を卒業した 134 人と卒業記念の植樹を行い、サツキ 160 本を植えました。



まちなか賑わい PJ
陸部会
永木 伸一

26 年度は、まちなかの賑わいづくりの端緒として「まちづくりステーション前ミニパークの整備と沿道花壇整備」「横町モールの改修計画の作成」をしてきました。今後は整備された場所を利用して、イベント等を仕掛ける仕組み作りを考えていきます。

また「汐風竹町通り」の整備についても、行政との意見交換を数カ月にわたって行い、内容を検討し、意見を反映出来る素を作ることができました。

イオンモール進出に当たり、今後も小名浜市街地の活性化と魅力創造を追求していきます。



まちなか賑わい PJ プロジェクト うみ ぶ かい 海部会 作山 栄一

アクアマリンふくしま、いわき・ら・らミュウ、小名浜美食ホテル、小名浜機船底曳網漁業協同組合、小名浜水産加工業協同組合、臨海工業団地の五社会で構成し、海を起点とする賑わいづくりについて検討してきました。

主なテーマは、これからの賑わいづくりと課題について。震災後の漁業再建に向け新魚市場が 1 号埠頭に整備され、栄町地区の旧魚市場は今後、水産加工団地の構想があり、これらをアクアマリンパークやまちなかといかに連携させるか、また臨海工業地域にある工場見学など、新たな産業観光も期待できます。

一方、アクアマリンパーク付近では、今後、交通問題が課題となってきます。水産関係の運搬車両や通勤等の一般車両に加え、観光や買い物客の車両が重なるなど、周辺道路の交通量増大が懸念されます。周辺駐車場の数やその出入りも含め、検討と対策を講じる必要があると考えます。

新魚市場は 3 月にいよいよ竣工を迎え新たなスタートを切ります。アクアマリンパークでは駐車場整備、アクアマリンふくしまでも新施設整備が進められます。海からの賑わいづくりがまちなかへ、そしていわき・ふくしま全体の賑わい再生につながっていくことを期待しています。

小名浜まちづくり 市民会議とは…

小名浜に住む人、小名浜を心から愛する人、小名浜を輝かせたいと思っている人々が集まり、関係機関・団体と協働で小名浜のまちづくりを進めている団体です。

会員募集

小名浜まちづくり市民会議では随時、会員を募集しています。学生さんも、働くお父さんも、子育てに励むお母さんも、年齢は問いません。皆さんも一緒に素敵な未来の小名浜を創りませんか？

年会費 個人会員：3,000 円 企業会員：15,000 円 団体会員：12,000 円

お問い合わせ・お申し込みは：いわき市小名浜字本町 11-1 (まちづくりステーション小名浜)

TEL: 52-1275 FAX: 52-1415

http://www.onahama.jp/ E-mail: info@onahama.jp

この広報物は、小名浜地区行政嘱託員（区長）連合会の御協力により配布しております。